

久留米大学病院眼科における HCV 術前スクリーニングの現状

研究分担者：井出 達也 久留米大学医学部内科学講座 教授

研究要旨：眼科などでは高齢者の手術が多く手術に際して、HBs 抗原や HCV 抗体を測定することがあるが、陽性であっても説明されなかったり、肝臓専門医へ紹介されないことがある。当院の眼科において HCV 抗体測定例を 2019 年から 2023 年まで調査し、HCV の治療状況などを検討した。当院眼科の HCV 抗体検査陽性率は、2.5～4.1%/年であった。HCV 既治療は 86 例（40%）であり、HCV-RNA 陽性まで確認された 42 症例（20%）のうち 94%が適切に専門医に紹介されていた。HCV 抗体陽性-その後の経過不明例 85 例（40%）の特徴は、かかりつけ内科（消化器・肝臓内科以外）とは連携しているが HCV 精査に至っていないケースや（カルテ調査上は）HCV 抗体陽性の説明の有無が不明なケースが含まれていた。当院眼科でも C 型肝炎患者が存在し、対応が不十分な例も一部あるため眼科医師、メディカルスタッフなどに啓蒙、教育していくことが必要と考えられた。

A. 研究目的

手術などに際して、HBs 抗原や HCV 抗体を測定することがあるが、陽性であっても説明されなかったり、肝臓専門医へ紹介されない例がある。高齢者が多く手術も多い診療科で、肝炎ウイルス陽性率が高いのは、眼科や整形外科であることがわかっている。そこで今回は当院の眼科における HCV スクリーニング状況を調査し、どの程度陽性率があるのか、陽性の場合、どの程度肝臓専門医に紹介されているのか、HCV 治療が行われているのかなどを検討した。

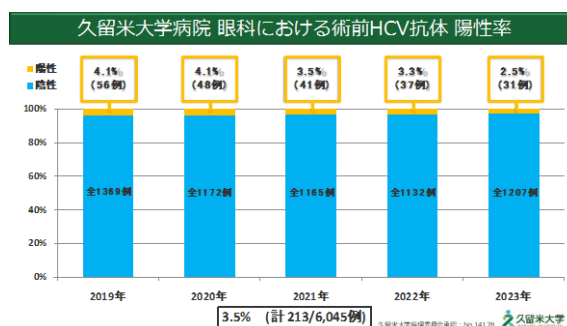
B. 研究方法

久留米大学病院眼科にて術前などで HCV 抗体が測定された例を 2019 年から 2023 年まで集積し、陽性例のカルテ調査を行った。カルテは、HCV 治療歴の有無、治療がない場合の理由などを調査した。

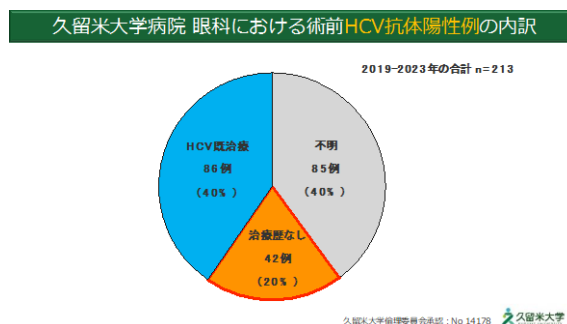
C. 研究結果

1) 眼科において、HCV 抗体は年 1,100 例台から 1,300 例台測定されており、抗体陽性率は 3.1%から 4.1%であったが、年とともに低下傾向であった。平均は 3.5%の陽性率で

あった。



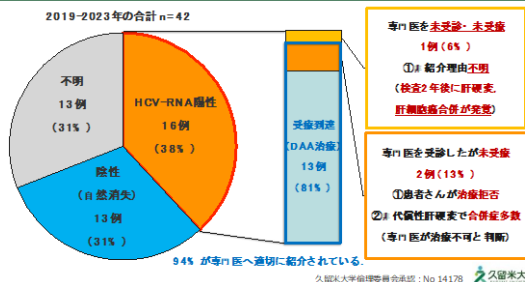
2) HCV 抗体陽性例 213 例の HCV 治療歴の内訳を示す。HCV 治療が済んでいるものが 86 例（40%）、治療歴のない例が 42 例（20%）、不明な例が 85 例（40%）であった。



3) 上記の図で、治療歴のない 42 例について詳細を検討した。HCV RNA 陰性が 13 例であ

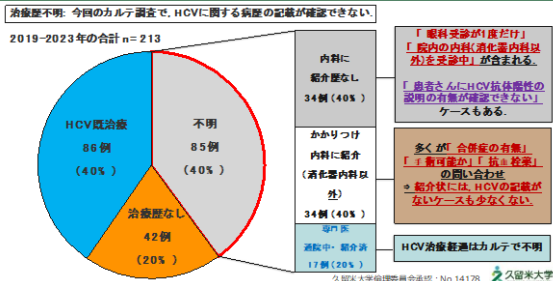
った（自然治癒と思われる）。不明が 13 例で、HCV RNA 陽性が 16 例であった。陽性例 16 例のうち、15 例(94%)が肝臓専門医に紹介されており、うち 13 例が DAA 治療を行っていた。残り 2 例は、患者が治療拒否と、非代償性肝硬変で合併症も多く専門医が治療不可と判断していた。肝臓専門医を受診しなかった 1 例の紹介しなかった理由は不明であるが、2 年後に、肝硬変、肝癌に進行していた。

久留米大学病院 眼科における術前HCV抗体陽性-治療歴無の内訳



4) 抗体陽性のうち、治療歴が不明の 85 例につき詳細を示す。専門医に通院中、紹介済みの例は 17 例(20%)であった。かかりつけ内科に紹介が 34 例(40%)であった。しかし多くは、合併症の有無や手術が可能かの問い合わせなどであり、HCV に関しての問い合わせは少なかった。HCV に関しては、かかりつけ(消化器・肝臓内科以外)があるので他の肝臓専門医に紹介しにくい面もあるかもしれない。最後に内科に紹介なしは 34 例(40%)あり、患者さんに HCV 抗体陽性を伝えたかどうか不明の例もあった。

久留米大学病院 眼科における術前HCV抗体陽性-治療歴不明例の内訳



D. 考察

当院における眼科術前の HCV 抗体検査陽性率は、2.5~4.1%/年であり、通常の検診

よりは高いが、高齢者が多いためと思われた。

HCV-RNA 陽性まで確認された症例の 94%が適切に専門医に紹介されており、HCV RNA 測定まで行うという眼科医の知識が治療に結びつくものと思われた。

HCV 抗体陽性-その後の経過不明例(全体の 40%)の特徴は、かかりつけ内科(消化器・肝臓内科以外)とは連携しているが HCV 精査に至っていないケースや(カルテ調査上)HCV 抗体陽性の説明の有無が不明なケースが含まれており、眼科医にも啓蒙、教育を行う必要があると思われた。

E. 結論

当院眼科でも C 型肝炎患者が存在し、対応が不十分な例も一部あるため眼科医師、メディカルスタッフなどに啓蒙していくことが必要と考えられた。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

厚生労働科学研究費補助金・肝炎等克服政策研究事業「肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究」班(R5-7)、厚生労働科学研究費・肝炎等克服政策研究事業「新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究班」(R2-4)、厚生労働科学研究費・肝炎等克服政策研究事業「職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効率的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究」(H29-R1)の班員として研究活動を行い、その成果として、眼科医における肝炎啓蒙を行い、また眼科における肝炎の精査などを解析し、啓蒙教育を行なっていくこととした。

<研究活動に関連した実務活動>

上記の研究班活動に加えて、久留米大学消化器内科、久留米大学医療センター、久留米大学肝疾患相談支援センターのセンター

長として、肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。更に福岡県の肝炎対策委員長として、県肝炎ウイルス対策部署と連携し、肝炎撲滅対策に取り組んでいる。

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

なし

3. その他

啓発資材

なし

啓発活動

* 井出達也: 講演「C型肝炎」市民公開講座、
令和6年10月13日 主催：福岡県肝疾患
相談支援センター

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし